

## みんなで地域づくり事業企画書

団体名	NPO法人千葉アレルギーネットワーク	
事業名	みんなの防災（支援を必要とする人をともに考える）	
目的・必要性	<p>東日本大地震の際には食物アレルギーの方や障害のある方、外国人などが災害弱者として避難所で困難な生活を送りました。</p> <p>食物アレルギーの方は厚生労働省データでは全人口の1から2%となります。このデータを踏まえると市内では総人口 91,441 人（H27年10月1日現在）のうち1,300人程度の対象者がいると想定されます。災害発生時、避難所を適切に運営するには一般市民の理解と協力は不可欠ですが、自助、共助、公助の基本的考え方にに基づき行動できる方は決して多くはありません。東京直下型地震がいつ起こるかわからない現在、みんなの防災のイベントを行うことにより、一般の方への意識づけ、災害弱者への理解促進、不測の事態に適切に対処するために行政や民間団体との連携を作ることが必要です。</p>	
内容	<p>支援を必要とする人の視点を入れた防災・避難所ノートの紹介、避難所運営ゲームHUG。防災グッズの展示・販売。食物アレルギー対応の防災備蓄品を使った簡単クッキングなどにより、参加者に対して、本催しの受講前後の意識の変化を確認します。</p>	
スケジュール	時期	具体的な取組
	4月	会場確保
	5月	関係各所に協力の依頼、打ち合わせ
	6月	チラシ作成、配布準備
	8月	みんなの防災 開催
	11月	報告書作成
役割分担の想定	<p>（団体の役割）</p> <p>関係各所との打合せ、参加者募集のチラシ作成、配布協力の依頼</p> <p>参加者の申し込み受付</p> <p>みんなの防災開催時の会場準備及び運営</p>	

	<p>(市の役割)</p> <p>広報誌への掲載、保健センターでの検診などでの呼びかけ、幼稚園、小学校を通じたチラシ配布。 危機管理室に備蓄などの情報提供をいただく。</p>
<p>他団体との連携</p>	<p>アレルギー児を持つサークルどんぐり アトピッズサークル ピコピコ 防災・避難所運営マニュアルをつくる会</p>
<p>期待される成果</p>	<p>(地域全体の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの防災を行うことにより、一般市民の方に防災の意識づけをすることが出来る。</li> <li>・災害弱者を通してアレルギーに対しての理解に繋がります。</li> </ul> <p>(アレルギーの患者への効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みに食物アレルギー対応の防災備蓄品を使った簡単クッキングの紹介などを行うことにより、子どもの参加も見込まれます。アレルギーのある子は一般的な食べ物が絡んだイベントには参加するのが難しいですが、参加することが出来ます。</li> <li>・チラシ配布などを通じ当団体のことを知っていただくことで、その後の相談をさくらそうの「ノンアレカフェ」で継続して受けることに繋がります。</li> </ul> <p>(活動の発展)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より深くアレルギーのことを学びたいと考えた方は当団体の事業であるアレルギー大学の受講を案内する。</li> <li>・さくらそうの「ノンアレカフェ」顧客拡大。</li> </ul>

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあつては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。